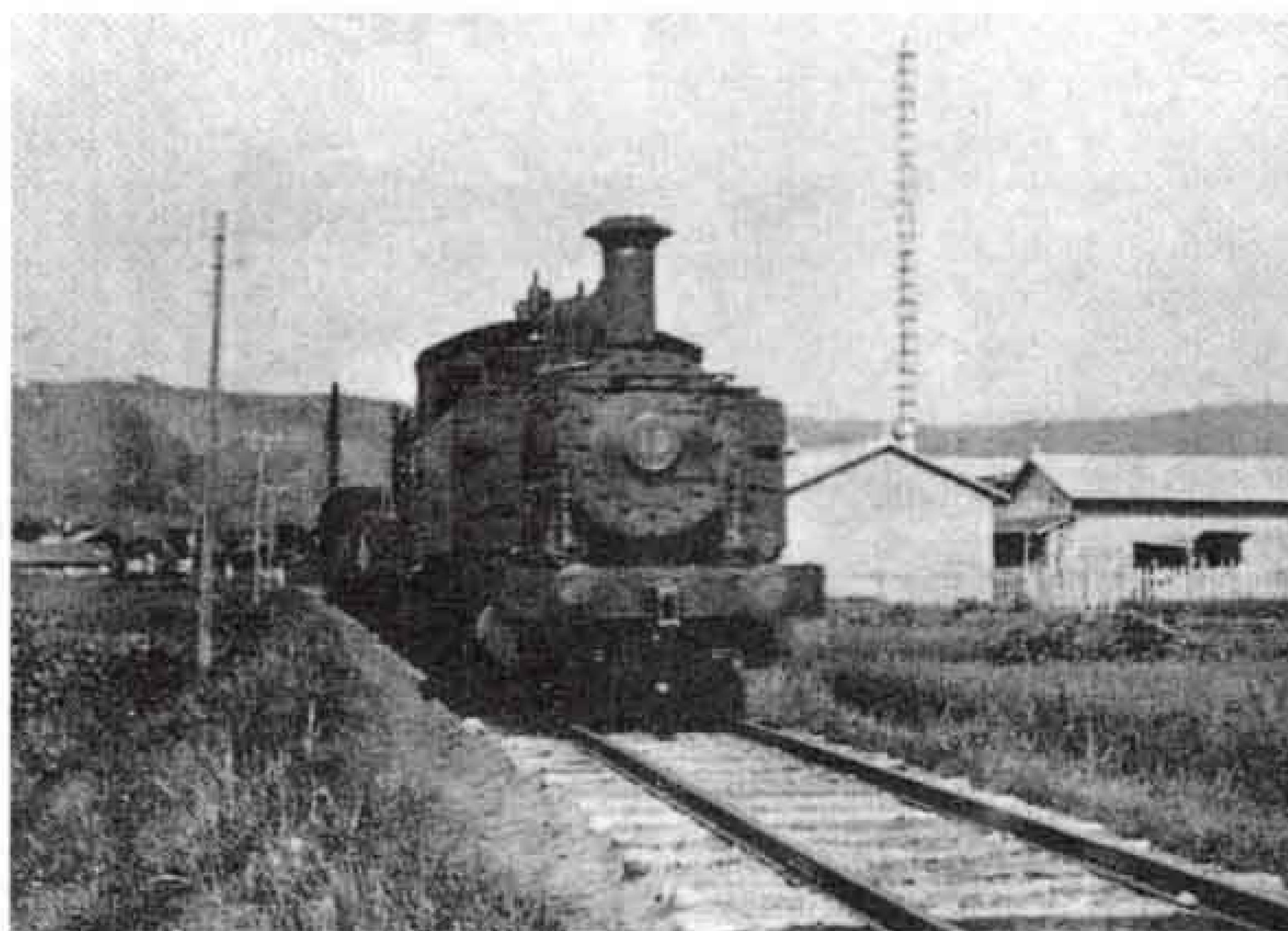




このコーナーでは富士地区2市1町（富士市・富士宮市・芝川町）にかかわりのある広範な情報をお知らせします。



▲大正時代の富士身延鉄道の列車



▲現在の身延線の列車

富士市・富士宮市・芝川町を線路で結ぶJR身延線。この身延線は、大正二年（一九一三年）に、大富士身延鉄道として富士・大宮（現在の富士宮）間で営業を開始しました。そして大正九年には、身延まで開通。当時の運賃は富士・身延間一円七十銭で、客車二両に貨車十両という編成でした。以来、二市一町の重要な交通手段として愛されています。今回の特集では、身延線にスポットを当て、二市一町の互いのまちを紹介します。秋の一日、身延線に乗って、駅からの散策などしてみてはいかがでしょうか。

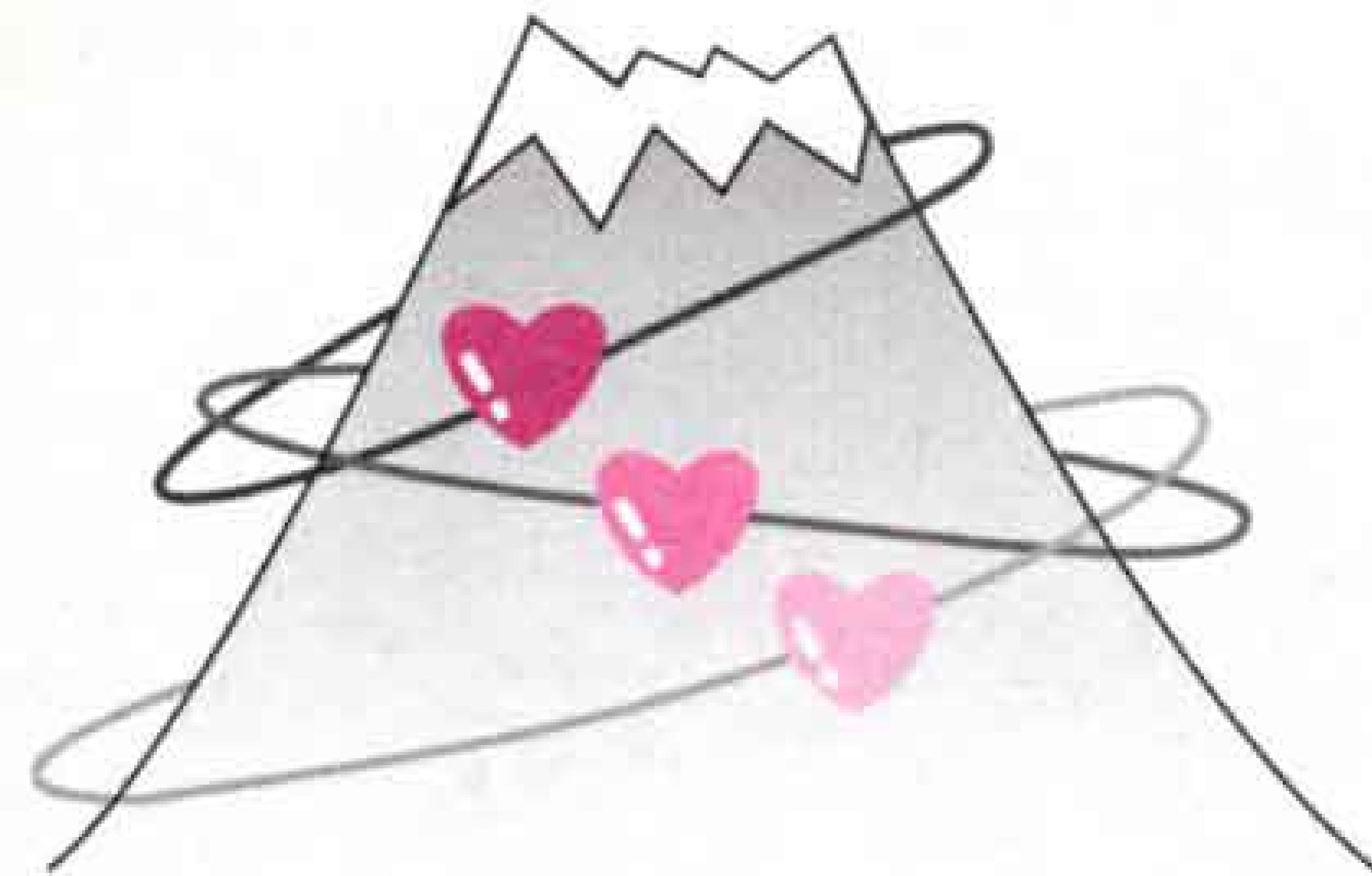
身延線で訪ねて…

昭和四十四年、身延線は、自動車交通量の増加に伴う高架化などのため、現在の路線に変更されました。その旧身延線の廃線敷を市が国鉄（現在のJR）から買収し、緑道として整備しました。これが現在の「富士緑道」です。この緑道は昭和五十六年に完成しました。その長さは富士駅の北東にある富士第一小学校付近から、堅堀駅の北にある潤井川鉄橋までの約二キロメートル。富士駅から堅堀駅で降り、しばらく歩くと緑道にたどり着くことができます。緑道には、アラカシなどの常緑広葉樹やヤマモミジなどの落葉広葉

樹が主に植えられているほか、花や実のなる木などを四季にわたり楽しめます。



富士地区広域広報コーナー

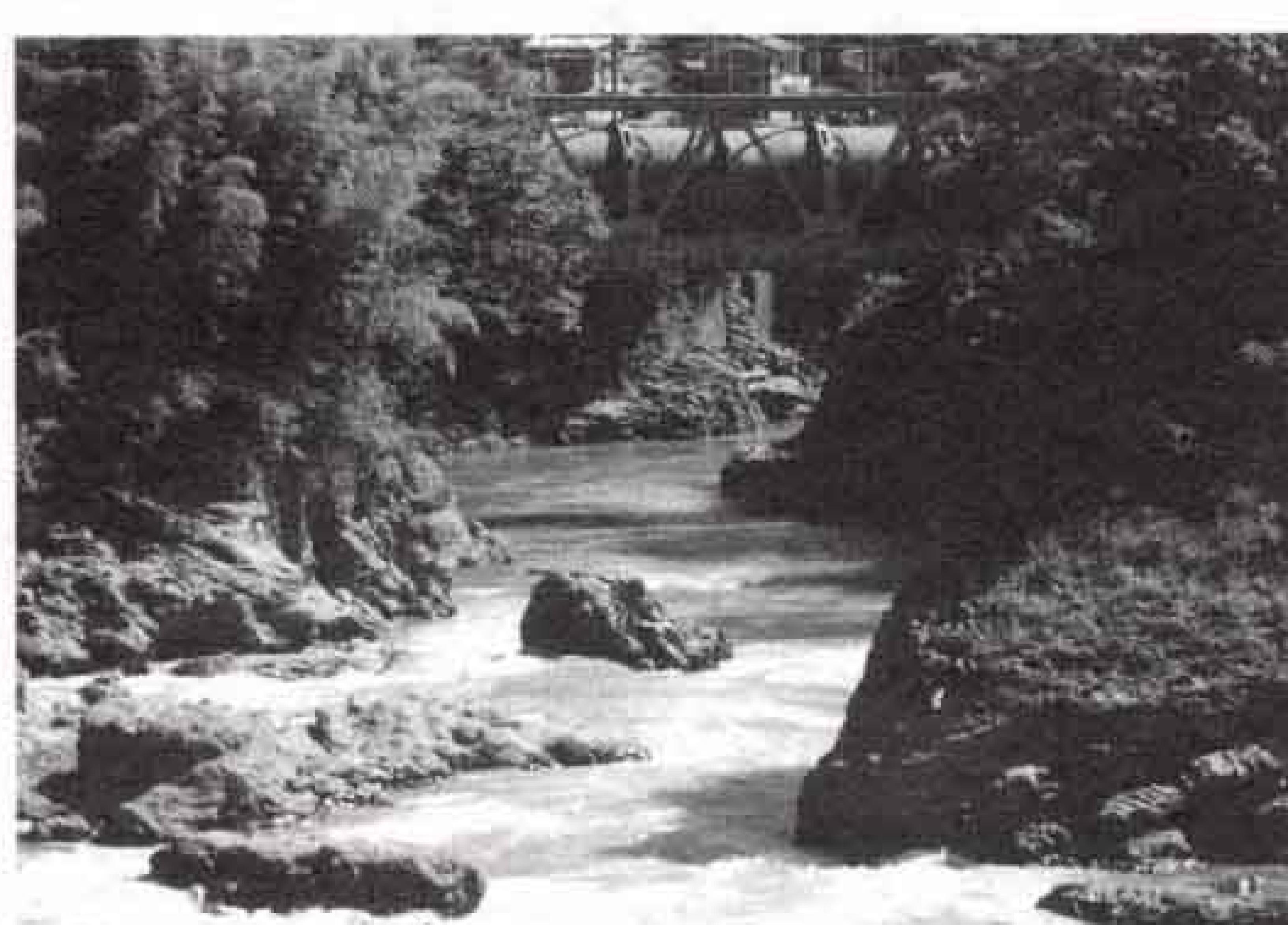


至身延

稻子駅

芝川駅

釜口峠



▲富士川の流れと岩が雄大な景色をつくっている釜口峠。

トンネル、次に小田トンネル、芝川駅を通過して長貫トンネル、第一湯沢トンネル、第二湯沢トンネル、稻子駅を通過して、静岡県と山梨県の県境にある稻子トンネルがあります。

稻子駅に向かう電車の左側には、日本三大急流の一つである富士川が見えます。芝川駅と長

身延線で訪ねて…



▲JR身延線芝川駅

沼久保駅を南に下ると、富士川があります。現在、最新の技術をもって逢来橋が完成されようとしています。ここはかつて沼久保河岸と言われ、身延線開通以前、富士川の舟運の物流基地として重要な役割を果たしていました。今も「舟場」の地名

沼久保駅に、高浜虚子の句碑と地元の俳人堤俳一佳の句碑が富士山に向かって立っています。

西富士宮駅から沼久保駅に向かう電車から見る富士山。その雄大な姿は多くの人を魅了しました。昭和三十三年、下部温泉で開催される俳句大会に向かって高浜虚子もきっとそんな景色を見ながら一句詠んだのではないかでしょう。駅員のない沼久保駅に、高浜虚子の句碑と富士山に向かって立っています。

が残り、かつての問屋のれんがづくりの建物に当時の面影をとどめています。

なお、沼久保駅から富士川に通じる道には、自然石の道標や、「いば神」と言われる穴のあいた大きな石などがあります。



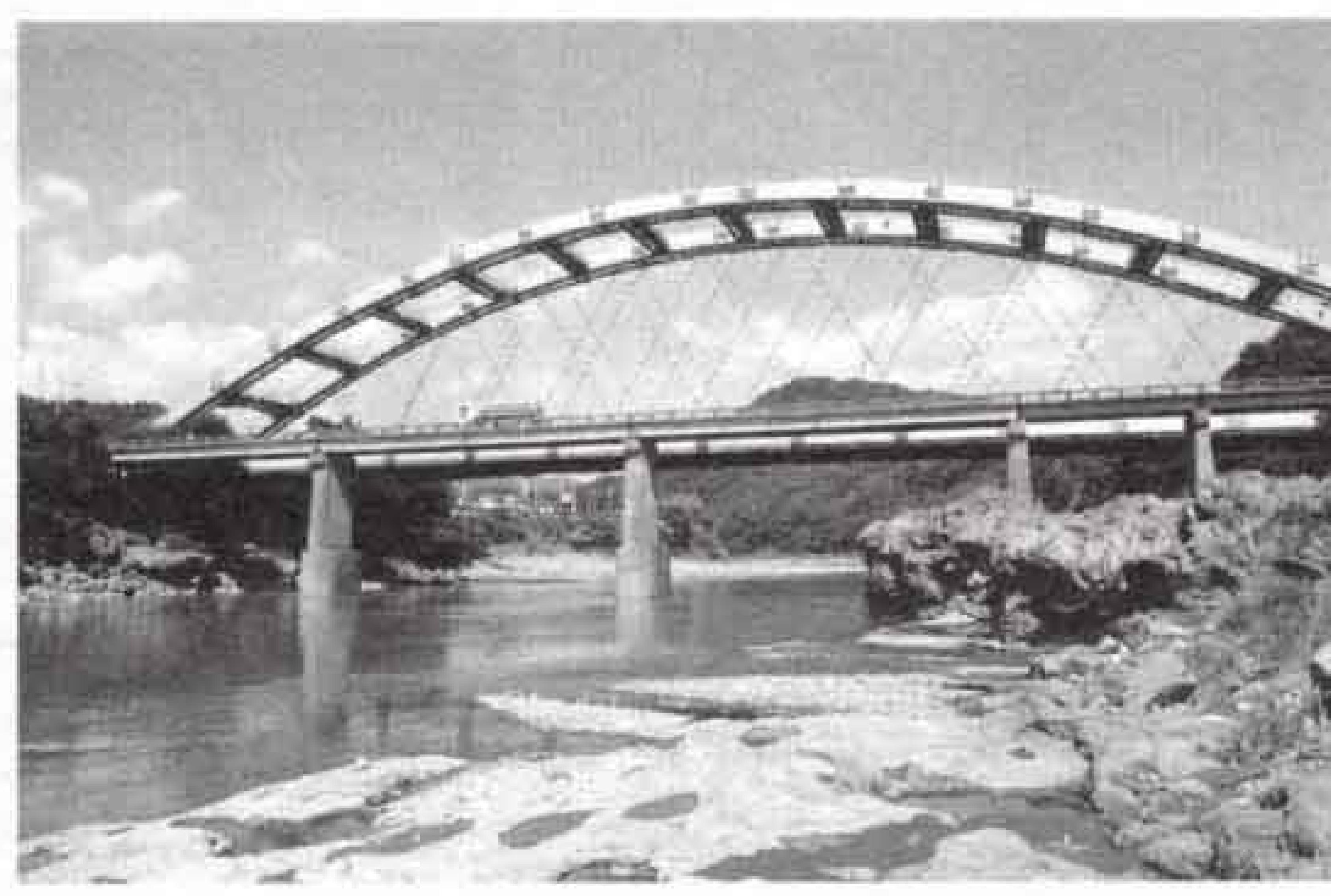
▶沼久保駅に立つ高浜虚子の句碑（左）。



貫トンネルのほぼ中間に位置するところから見える釜口峠は、曲がりくねった流れと切り立つ岩壁が雄大な景観をつくり出しています。しかし、その昔、

沼久保駅を通過した電車は、トンネルを抜けて芝川町に入ります。山間地のため、芝川町には、六つのトンネルがあります。富士宮市との境にある沼久保トンネル、次に小田トンネル、芝川駅を通過して長貫トンネル、

富士川舟運の時代には通船十二難所の中でも最も危険と言われた場所で、多くの水難事故が起き、とうとい命が奪われました。その冥福を祈るとともに、今後水難事故が起こらないよう願い、毎年八月に釜口峠供養塔前で川施餓鬼供養祭が行われています。



◀富士川と新旧の逢来橋
かつてこのあたりもかなりの水量がありました。

